

AED啓発

歩み絵本に

娘の死契機に活動川崎さん(福井)

突然の心室細動で高校生の長女を亡くした経験から自動体外式除細動器(AED)などの普及活動を進めてきた福井市の川崎眞弓さんの歩みが、日本語と英訳文を併記した「バイリンガル絵本」になった。川崎さんは「たくさんの人に読んでもらい、勇気を持ち、自分ができることをやることで命をつなげる可能性があることを知ってもらえたら」と話している。

(近藤洋平)



絵本「いのちのぼとん」(右)とバイリンガル版を手にする川崎さん＝福井市の福井新聞社

絵本を制作したのは、東京のボランティア団体「防災一人語り」推進グループ。同団体は2005年から、さまざまな災害や消防救急活動の実話などに基づく作品(脚本)を朗読したり、落語を披露したりしてきた。19年からは子どもたちの防災意識啓発と行動力の向上を目指し、脚本を原作にした絵本化に乗り出した。

製本を制作したのは、東京のボランティア団体「防災一人語り」推進グループ。同団体は2005年から、さまざまな災害や消防救急活動の実話などに基づく作品(脚本)を朗読したり、落語を披露したりしてきた。19年からは子どもたちの防災意識啓発と行動力の向上を目指し、脚本を原作にした絵本化に乗り出した。

表紙には漫画家のアシスタントが夢だった沙織さんが生前、手がけたイラストを掲載。文は音森奏さん(東京)、文中イラストは公募に応じた佐

バイリンガル版完成

「救命の可能性知って」

製本版は、沙織さんの命日の9月10日を発行日とした。福井市内の小中学校と県内の高校など約110校のほか、岐阜、長野、山形、高知県などの小中高校に寄贈した。絵本は同グループのホームページ(「防災一人語り」)で検索で自由に閲覧できる。日本語のみの絵本もある。

「バイリンガル絵本が、子どもたちの救命への意識啓発の役に立てば」と願う。川崎さんは「沙織からのメッセージがたくさんの人に届くことに感謝したい」と話している。

々木曜さん(神奈川)が担当した。英訳は角田貴美枝さん(福井市)が手がけた。グループの加藤雅代表は「バイリンガル絵本が、子どもたちの救命への意識啓発の役に立てば」と願う。川崎さんは「沙織からのメッセージがたくさんの人に届くことに感謝したい」と話している。